

企画番号：22

企画タイトル：龍谷大学周辺（龍谷の森、文化ゾーン）の哺乳類と鳥類の調査

概要

◆ 鳥類

【目的】

文化ゾーンに生息する鳥類の観察を行い、どのような環境に生息しているかを調査する。

【方法】

ライトセンサスとスポットセンサスの2つを取り入れて、調査を行った。

【結果】

文化ゾーン内で原っぱ・池・人工物・森の4つに大きく区分したところ、原っぱでは15種類、池では10種類、人工物では18種類、森では14種類の鳥を観察した。

また、すべての地点で観察した種もいたが、限定的に観察できた種もいた。

【考察】

観察種数最多エリアは人工物エリアであったことから、建物居合に、植え込みや街路樹があるため、多種の鳥にとって生息しやすい環境である。そして、人間の近くを利用することで、天敵から身を守る役割もあるのではないかと思われる。

◆ 哺乳類

【目的】

龍谷の森に生息している哺乳類を中心とした動物を把握する

【方法】

カメラトラップとフン分析をを行い、動物種を特定した。

【結果】

哺乳類8種類、鳥類などその他の動物を合わせて合計16種類観察することができた。

哺乳類だけだと、ぬたばでは2種類、水場では3種類、臨時水場では3種類、入り口では6種類を記録した。また、フン分析では合計6個のフンを採取した。そのうち2個はイタチで、残り4個はホンドテンだった。

【考察】

仮説と異なり水場において、哺乳類の利用が少なかったのは、水場が人工的で、水の循環が悪く、水質に問題がある可能性があると考え。また、不明種が多かったのは、場所に合わせて感度や時間、カメラの位置などが適していなかったと考える。